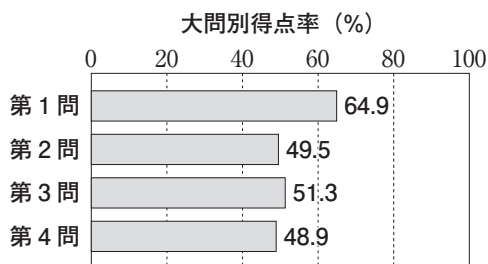
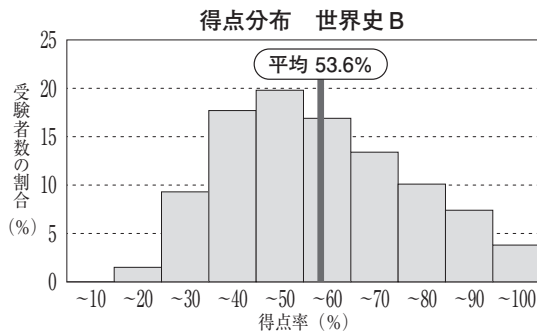


# 世界史B

基本的な歴史的流れを正確に覚える学習を着実に進めよう！

## I. 全体講評

今回の平均点は53.6点で、前回（6月全国統一高校生テスト）の48.7点から順調な伸びを見せた。しかし内容的に見ると、この伸びを単純に喜べない。今回の問題では基本中の基本が3題（**1**、**4**、**9**）あり、これらの正答率は80%以上であった。その結果で、平均点が押し上げられたと考えられるからである。全般的に改善されたのは、以前は正答率が低かった近現代史が他の時代に近づいてきたことである。今、最も心配なことは、基本的な事項の正確な知識に欠けていることである。今回最も正答率が低かった**16**のアッシリアの問題は、滅ぼした国さえ正確に知っていれば間違える問題ではなかった。これに象徴されるように、正確さに欠けているような解答が多かったが、今後の学習の糧にしてほしい。



## II. 大問別分析

### 第1問 世界史上の法

早急に近現代史まで学習を進めよう。

第1問の得点率は64.9%と最も高かった。正答率が80%を超えた**1**と**4**と**9**が得点率を押し上げたからである。正答率87.8%の**1**はゲルマン人とユスティニアヌスを問うヨーロッパ古代史の基本であり、81.0%の**4**はジャイナ教を問うインド古代史の基本、85.9%の**9**のライト兄弟と原子爆弾は一般常識問題であることを考えると、この結果は当然であろう。第1問で正答率が最も低かったのは51.2%のベトナム戦争の問題の**7**であった。これはシク戦争を問うた53.5%の**5**と同様に、近現代史まで学習が及んでない受験者が多かった結果と見られる。古代東南アジアの扶南を問う51.3%の**6**の問題については、古代東南アジアに成立した国家が扶南とチャンパーの2つであることを考えると、少し残念な結果と言わざるを得ない。正答率57.6%のジェファソンについての**8**と、67.7%の**3**の宗教改革の発端をつくったレオ10世の問題も同様に基本的な事項であることから、この正答率には不満が残る。逆に**2**の法家の思想と金印勅書の問題の62.7%は、問題がそう簡単でないことから、満足な結果であった。第1問を見る限りでは、近現代史については、古代・中世に比べて正答率が低い。早急な対応が必要とされている。

### 第2問 博物館や図書館の歴史

世界史に登場する地名が地図上でどこにあるか確認しよう。

第2問の得点率は49.5%と第4問に次ぐ低い得点率であった。この原因は全問中ワースト1とワースト2の**16**と**12**があったからであろう。正答率32.8%の**16**の問題は、半数以上の受験者がアッシリアはアケメネス朝に滅ぼされたと間違えた結果であった。32.9%の**12**の問題は、北宋の歴史的流れを整理されていない結果であったようだ。40.5%の**17**のアフガニスタンの近現代史の問題も、基本的

問題であることから残念な結果であった。地図を用いた問題の[15]の45.2%は、ナイジェリアの位置を正確に把握していない結果である。また[11]の47.0%は、仰韶文化の生まれた場所が黄河流域と正確に分かっていない結果であった。[18]の53.3%も、イスラームの王朝がどこにあったかが分かっていれば簡単な問題であったはずだ。これら3題から、教科書などに出ている地図は、確実に覚えておく必要があることを理解してほしい。特に、歴史に出てくる国やその首都などは、どこにあるか正確に身につける学習が必要であろう。清について問う[10]の正答率59.3%は清成立の基本が理解されていた結果であろう。オスマン帝国について問う[13]の63.4%も、オスマン帝国について基本が分かっている結果であろう。同じようにムガル帝国について問う[14]のも64.6%と満足なものであった。近世アジアの学習が進んでいる結果であろう。

### 第3問 世界史上の戦争

**歴史的建造物や絵画はその歴史的意味と名称を押さえよう。**

得点率は全問平均より少し低い51.3%であった。第3問で正答率が低かったのは、パレスチナ暫定協定が結ばれたときのアメリカ大統領を問う[27]の33.7%であった。現代史で少々細かい部分であるが、アメリカ合衆国の歴代の大統領がなしたことを整理しておけば出来る問題である。逆に青年トルコ革命を問う[21]の問題は44.4%と健闘した結果がでていた。同じように、漢の高祖とフィリップ4世の組合せの問題[19]の49.4%も健闘した。孟子の性善説について問う[24]の問題は、65.6%とこの大問中最も良かった。フランスのシャンパーニュ地方が中世ヨーロッパで定期市で栄えたことを問う[25]について64.0%の受験者が知っていたこととあわせて、ヨーロッパ古代・中世・近世史と中国古代・中世・近世史は安定してきたことを示している。スエズ運河国有化の年代補充の問題の[26]が57.1%になったことは、今回の試験のハイライトと言ってもよい。逆にペルシア戦争の原因となったミレトスの位置を問う[20]の54.1%は残念な結果であった。同じように[23]のシャープール1世についての問題の48.9%も、ササン朝の代表的君主であることから残念な結果と言わざるを得ない。ポッティチェリの「春」とサン＝ピエトロ大聖堂についての39.7%

の[22]は、新傾向の問題で今後増えていくと予想される。サン＝ピエトロ大聖堂の様式が分からなかった受験者が半数以上いたようだ。

**第4問 アジアにおける「ウェスタン＝インパクト」**  
**基本的な歴史用語、歴史的人物名はきちんと覚えよう。**

第4問の得点率は48.9%と全大問中最も低かった。この大問が他の大問に比べて難度が高かった結果であろう。インドで「塩の行進」が行われた時期を問う[31]の正答率は37.4%、19世紀の東南アジアの年代整序の[35]の39.9%、中国の「大躍進」を問う[36]の40.8%は近現代史としては健闘したと言える。現段階でのコメントとしてはそうであるが、秋を過ぎたときにはこれらが基本的問題になっていることを期待する。ベルギーの独立を問う[34]の69.4%、ネルチンスク条約とピョートル大帝について問う[29]の61.0%、広州とその位置を問う[28]の58.1%は、現段階としては満足できる結果であった。これに対してノルマンディー公国の建国者を問う[30]の正答率が41.0%は残念な結果であった。リューリクはロシアの基となるノヴゴロド国の建国者であることは基本的事項である。[32]の47.8%も残念な結果である。ヴィクトリア女王は19世紀のイギリス史の根幹であり、北京条約は沿海州がロシア領となった重要な条約である。[33]の48.9%も残念な結果であった。南北戦争時に南部諸州は、アメリカ合衆国から脱退してアメリカ連合国を結成し、そのことを認めない北部と戦争になった。アメリカ連合国は基本的用語である。

### Ⅲ. 学習アドバイス

#### ◆センター試験の形式に慣れよう。

何よりもセンター試験の形式や内容によく慣れることが重要である。実戦的な演習を積んでいくことで、よりなじんだものにしていくことが得点力アップにはとても効果的である。

#### ◆現時点の学力を正確に把握しよう。

様々なテーマのリード文が出されるが、小問自体は教科書レベルの基本事項が大半である。基礎を確認して正確な知識を身につけよう。